林大だより

第 92 号　　令和 8 年 10 月 31 日　　長野県林業大学校翌桧会



2 学年　6 月　北海道研修



1 学年　4 月　屋久島研修



2 学年　5 月　山の環境学（上高地）

翌桧会会長に就任して

翌桧会　会長　神山　明彦



このたび、長野県林業大学校保護者会「翌桧会」の会長を拝命いたしました。翌桧会は、保護者相互間の連絡を密にし、大学校と協力して、教育の発展に資することを目的とした大切な組織です。歴代会長をはじめ、諸先輩方が築き上げてこられた伝統ある会の運営を引き継ぐこととなり、その重責を感じるとともに、大変光栄に思っております。

現在、林業を取り巻く環境は大きく変化しています。地球温暖化対策や脱炭素社会の実現に向けて森林への期待が高まる一方、担い手の確保や技術の継承、森林の適正な管理など、多くの課題に直面しています。また近年は、クマをはじめとする野生鳥獣による被害が各地で深刻化しており、人々の暮らしの安全・安心を守るうえでも、林業と森林管理が果たす役割はますます重要になっています。

このような中、長野県林業大学校の卒業生は、林業や木材産業をはじめ、行政、教育、森林環境保全など幅広い分野で活躍しており、互いに支え合い、学び合うことのできる貴重なネットワークとなっています。

また、長野県では、木曽谷・伊那谷フォレストバレーの取組が進められています。豊かな森林資源を活用しながら、産業振興や地域活性化、人材育成につなげていくこの構想は、まさに長野県の未来を支える大きな挑戦です。こうした中で、長野県林業大学校には、次代の林業を担う優れた人材の育成が期待されており、翌桧会もその一翼を担っていかなければならないと考えています。

学生たちの成長は、学校だけで成し遂げられるものではありません。日々熱心に指導にあたる教職員の皆様と、学生を温かく見守り支えてくださる保護者の皆様が連携し、一人ひとりの成長を支えていることに深く感謝申し上げます。また、学生のインターンシップの受け入れや水無神社例大祭や手仕事市等の地域活動への参加など、学生を温かく受け入れ、育ててくださっている地域の皆様のご理解とご協力は、本校の教育活動に欠かすことのできない大きな力となっています。森林とともに生きる地域の皆様とのつながりこそが、学生たちにとって何よりの学びの場になっていると感じています。

子どもたちがお世話になっている寮の運営については、近年の物価高騰により様々なご苦労があるのではと想像いたします。これからも翌桧会は、会員皆で力を合わせ、学校の支援に力を尽くしてまいりたいと思います。

結びに、これまで翌桧会を支えてこられた諸先輩方、関係者の皆様に心より敬意と感謝を申し上げますとともに、会員の皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げ、会長就任のご挨拶といたします。



東大北海道演習林で研修（２学年）



チェンソー初回実習（１学年）

挑戦に失敗はない

長野県林務部長　千代　登



皆さんは、「何かに挑戦すること」を意識したことがあるでしょうか。

改めてそう聞かれると、少し考えてしまうかもしれません。しかし、林大生の皆さんは、すでに大きな挑戦を経験しています。将来の進路として長野県林業大学校を選び、入学したこと。その決断そのものが人生における挑戦だったのです。

私たちは、大小さまざまな挑戦をしながら生きています。そして、その積み重ねが人生を豊かにし、自分自身の可能性を広げていきます。挑戦とは、未知の世界へ一歩踏み出すこと。その先には成長があり、新たな発見や喜びがあります。それは勉強だけでなく、仕事や家庭、趣味など、あらゆる場面に共通することだと思います。

私は、皆さんが将来、木や森に関わりながら地域社会を支える担い手として活躍されることを期待しています。時代が大きな転換期を迎える中、森林・林業を取り巻く環境は、人工林の高齢級化による資源循環、ゼロカーボン社会への貢献、異常気象や野生鳥獣出没への対応、人口減少時代における働き方改革など、これまでの延長線上の考え方だけでは解決できない課題ばかりです。だからこそ、従来の枠を越えた新しい発想と挑戦が必要です。

とはいえ、いきなり大きな挑戦をする必要はありません。日々の小さな挑戦の積み重ねが、やがて大きな挑戦へとつながります。授業や実習で積極的に学ぶことも挑戦、趣味や遊びの中で新しいことに取り組むことも挑戦です。ぜひ今のうちから広い視野を持ち「挑戦することを楽しむ習慣」を身につけてください。社会で活躍している本校卒業生の多くも、挑戦を積み重ねながら大きな成果を生み出しています。

これからの時代を切り拓くのは、若い世代の皆さんです。挑戦に失敗はありません。結果が思いどおりにならなくても、その経験は必ず自分を成長させてくれます。むしろ、本当の失敗は「挑戦しないこと」かもしれません。一度きりの人生です。失敗を恐れず、ぜひ挑戦を続けてください。皆さんの未来を心から応援しています。

山と暮らす

木曽町長　加藤　真和



木曽に暮らす私たちは、山と共に生きています。梢を渡る風。鳥の声。谷を流れる水の響き。そして、何百年もの歳月を生きぬいてきた、木々の佇まい。木を植え、伐り、山を歩き、自然とともに生きる。その営みの中で、いつしか郷土への愛情が育まれてきました。

「木一本、首一つ」

かつて、江戸時代の御用林の厳しい管理は、当時の人々にとって決して容易なものではなかったでしょう。しかし、その厳しさがあったからこそ、今日の豊かな森が残り、「木を畏れ、木を敬う」という木曽独特の文化が受け継がれてきました。

林業とは、時間を相手にする仕事です。森は、人の一生をはるかに超える歳月を生きています。

今日植えた木が立派な材木になる頃には、自分はもうその山にはいないかもしれない。それでも次の世代を信じて苗を植え、森を育てる。その仕事には、自分のためだけではなく、まだ見ぬ誰かのために生きるという、人間の営みの美しさがあります。

林業という決して華やかではない道を自ら選び、木と向き合い、山と向き合おうとする若い人たちが、この町で学んでいる。その姿は、木曽の未来そのものです。だからこそ、この木曽町に林業大学校があることを、私はとても誇りに思っています。

皆さんは勉強だけではありません。スポーツや地域の行事にも積極的に参加し、町の人々と交流をしていただいております。若い笑顔や真剣な眼差しは、住民の私たちに元気と希望を与えてくれています。

急ぐことばかりが求められる時代だからこそ、百年先を思いながら一本の木を育てるという営みは、私たちに「本当の豊かさとは何か」を静かに問いかけています。

木曽の山で過ごした時間が、皆さんの人生の根となり、それぞれの場所で大きく枝葉を広げていくことを願っています。そして「自分を育ててくれた場所」として、この木曽を第二の故郷と思っていただければ、私たちにとって何よりの喜びです。

恩返しと恩送り

長野県林業大学校　校長　千村　広道



校長として二年目を迎えました。日々たくましく成長する学生たちの姿を見つめながら、彼らを温かく支えてくださる保護者や地域、業界の皆さまに心から感謝を深める毎日です。

今回の寄稿にあたり、私は「恩返し」と「恩送り」という言葉を思索しています。私自身、この学校の卒業生の一人です。かつてこの学び舎で、先生方から林業の基礎と森林を愛する心を徹底的に叩き込まれました。今の私があるのは、あの時受けた数々の恩恵のおかげに他なりません。私にとって今、校長として教壇に立ち、学校運営に携わることは、育ててくれた母校と長野県の豊かな森林への「恩返し」の機会であると考えています。

そして、私たちが生業とする林業という産業の本質は、まさに「恩送り（ペイ・フォワード）」そのものです。今、山で伐り出している立派な木々は、私たちが生まれる前、会ったことのない先人たちが未来を信じて植え、育ててくれたものです。私たちは先人から受けた恩恵を、そのまま先人に返すことはできません。だからこそ、その感謝の気持ちを、まだ見ぬ未来の子や孫の世代へと回していく必要があります。

今、私たちが流す汗や、五十年、百年先を見据えて植える一本の苗木は、自分が生きている間には成果を見届けられないかもしれません。しかし、それは確実に、次の世代の豊かな暮らしと安全な国土を創り出します。見返りを求めず、未来へ豊かな環境を贈る。これほど美しく、壮大な時間軸を持つ仕事は他にないと思います。

林大の役割とは、この「恩返し」と「恩送り」の結節点（バトンタッチの場所）になることです。先人から受け取った大切なバトンを、確かな技術と誇りとともに、未来を託せる若者たちへと手渡して送り出す。それこそが私の使命であると思っています。

学生の皆さん、君たちが今学んでいる技術と知識は、未来の地球と人々を豊かにする最高のギフトです。伝統を受け継ぐ誇りを胸に、ともに信州の、そして日本の林業の未来を創り出していきましょう。



学生のページ

あすなろの呟（つぶやき）

学校・寮生活から

後悔しないために



1学年　青山　遥

林業大学校で生活していると、勉強や運動、アルバイトなど、それぞれのことを頑張っている人たちの姿を目にします。私自身も平日や土日にアルバイトをしていますが、周りの人たちが一生懸命取り組んでいる姿を見ると、「自分はまだまだ努力が足りないな」と感じることがあります。だからこそ、これからは自分は自分で、今できることにしっかり取り組みたいと思っています。

まずは勉強を頑張りたいです。特に樹木テストの勉強では、樹木の名前の由来を知ると面白く、ただ覚えるだけではなく、「もっと知りたい」と思うようになりました。林業大学校にはたくさんの樹木標本があるので、実物と見比べながら、一つひとつの樹木を覚えていきたいです。標本一〇〇種類をしっかり覚え、樹木テストには絶対に合格したいです。

林業大学校で過ごせる二年間は限られています。勉強も実習もアルバイトも、後から「あのときもっと頑張ればよかった」と後悔しないように、自分から興味を持って取り組みたいです。そして二年間を終えたときに、「頑張ってよかった」と思える学校生活にしたいです。



半年間の学び



１学年
足達　智仁

林業大学校に入学して半年が経ち、学校生活にも少しずつ慣れてきました。特に印象に残っているのは、寮生活とチェンソーの実習です。

寮生活では、今まで家族と暮らしていたときとは違い、門限や、寮内のルールなどがあり、ルールやマナーの大切さを学びました。友達と一緒に生活する中で、周りの人への気遣いも大切だと感じています。大変なこともありますが、友達と話したり、一緒に過ごしたりする時間は楽しく、充実した寮生活を送ることができています。

チェンソーの実習では、実際にチェンソーを扱い、基本的な操作や安全確認についてトップガン研修で学びました。初めは緊張しましたが、練習を重ねることで少しずつ操作にも慣れてきました。チェンソーは便利な道具である一方、安全を最優先にしなければならないことを実感しました。

まだ入学して半年ですが、これからも寮生活や実習を通して多くのことを学び、林業に必要な知識や技術を身につけていきたいです。



植栽実習（１学年）

林大で生活して



１学年
小野　雄介

四月に林大に入学して、かれこれ五ヶ月ほどたち、初めての寮生活で洗濯などを自分で行い、日頃から同級生だけでなく先輩方と同じ所で生活するということにかなり不安がありました。

自分は昔から人と話すことが苦手で基本的に必要最低限のことしかしないようにしており、あまり会話をしてきませんでした。そのため、ほぼずっと先輩や同期の人と一緒に生活することについて全く想像できませんでした。それでも入寮してからは同じ部屋の先輩や、係が同じ先輩にさまざまなアドバイスや寮での生活について教えていただいたり、同期とは四月に行った屋久島研修を通して話しやすくなりました。授業についても先輩にどんなものが必要かを教えてもらったりなど助けていただきました。

寮生活もかなり慣れ、学業にも力を入れ、これからの生活も先輩に助けていただくだけでなく、できることだけでも協力し、同期の人たちとも協力できるようにして、卒業してよかったと思えるような生活をしていきたいです。



屋久島自然館（１学年）



コンテナ苗植付（１学年）

林大に入学して



1学年
手塚　紀宏

長野県林業大学校に入学してから、約半年が経過しました。この半年で、数々のことを経験してきました。

最初のころは、初めての寮生活であり、四人一部屋だったため全く慣れることができず、夜に眠れないことが多くありました。

また、夜に眠れないことで、次の日の授業を集中して受けることができなかったり、放課後にバイトに行くのが憂鬱になることもありました。眠れないことによるストレスも発生し、学校生活が嫌になることも多かったです。ようやく、夏休み明けになり、この生活にも慣れてきていると感じています。

この半年間で、勉強もそうですが、多くの実習を行ってきました。高校のころにオープンキャンパスや寮祭で見てきたチェンソーも六月あたりから実習が始まりました。トップガン研修の第一回目もあり、「憧れてきた林大に入れた」と実感することができました。

これからは、よりハードな実習も増えてくると思います。体調に気を付け、楽しく実習を行っていこうと思います。

半年を振り返って



1学年
皆川　弥希

長野県林業大学校に入学して半年が経とうとしています。入学したては寮生活や授業のことで不安でいっぱいでしたが、今はある程度慣れてきて授業や生活を通して先輩や同級生との絆を深めていくことができるようになりました。

高校は森林科学科だったので学んだことがあるものもあれば、初めて知ることも多くあり、とても楽しく勉強できています。テストなども増えてきて勉強が大変な時期ですが、赤点を取らずに進級するために授業の復習などの大切さを改めて実感しました。

あと少しで二年生になりますが、一年生のうちにできることをして実習が増える二年生になったときに困らないようにしたいです。

入学してから、新しい経験が多くあり、自分自身が少しずつ成長しているなと感じることができています。今後も寮生活や学校生活を通してさらに成長できるように、自立した行動を心がけていきたいです。

林大に入ってよかったこと



2学年
荻原　宗太

長野県林業大学校に入学して良かったと思うことは、林業について実際に体験しながら学べたことです。

入学する前は、林業は木を切る仕事というイメージが強かったですが、授業や実習を通して、森林を育てたり管理したりするなど、いろいろな仕事があることを知りました。特にチェンソーや林業機械を使った実習は、最初は難しくて思うようにできないこともありましたが、練習して少しずつできるようになるのが楽しかったです。

また、実習では一人で作業するのではなく、周りと声を掛け合いながら作業するので、仲間と協力することの大切さも学びました。

学校で林業関係の仕事をしている方の話を聞いたり、実際の現場を見たりする機会があるのも良いところだと思います。将来どんな仕事をしたいのかを考えるきっかけにもなりました。

大変な実習もありますが、その分できることが増えたときはうれしいです。これからも学校でいろいろなことを経験して、将来の仕事に活かしていきたいです。



植栽実習（２学年）

林業大学校の生活



2学年
杉本　桃花

林大で生活してみて、楽しいことだけでなく、大変なこ

ともたくさん経験しました。特に大変だと感じているのは、自分の体調のことです。治療のために薬を服用していますが、その副作用によって体調を崩すことがあり、授業や実習に参加することが難しい日もあります。林大では体力を使う実習も多いため、思うように体が動かないときや、周りについていけないときには、悔しく感じることもありました。

そんな中でも、先生方や友達が体調を気にかけてくれたり、できないことを手伝ってくれたりすることがあり、とても助けられています。何気なく声をかけてもらったりすることで、一人で頑張らなくてもいいのだと感じることができました。

林大での生活を通して、森林についての知識や技術だけでなく、人に支えてもらうことのありがたさも学ぶことができました。今も体調面で大変なことはありますが、周りの人への感謝を忘れず、自分にできることを少しずつ頑張っていきたいと思います。

長野県林業大学校に入ってよかったこと



2学年　中澤　晴日

長野県林業大学校に入ってよかったことは、林業に関するさまざまな資格を取得できたことです。

学校では、チェンソーや刈払機などの林業に必要な資格や講習を受けることができ、実際の現場で役立つ知識や技術を身につけることができました。資格を取るための勉強や実習では、最初は難しいと感じることもありましたが、先生方に教えていただきながら練習することで、少しずつできることが増えていきました。

また、資格を取得することで、自分の成長を実感することができ、自信にもつながりました。将来、林業の仕事に就くうえで、資格は自分の技術や知識を証明する大切なものだと思います。

これからも学校で取得できる資格に積極的に挑戦し、将来の仕事に生かしていきたいです。

林大生活を振り返って



2学年　三浦　脩雅

長野県林業大学校での生活は、豊かな自然のなかで林業の基盤を身につける充実した日々でした。

座学で森林生態や林業技術の理論を学び、広大な実習林で行う現場実習を通じて、知識が実践へと変わる手応えを実感しました。

特に印象深いのは、各種資格の取得に向けた学びです。チェンソーや刈払機、小型移動式クレーンなどの車両系建設機械の講習、作業安全や森林施業に関する実践的なトレーニングを通じ、現場での安全意識と専門技能を高めることができました。仲間と試行錯誤しながら技術を磨き合った時間は、何物にも代えがたい経験です。

本校で得た専門知識や各種資格、そして共に汗を流した仲間との絆を糧に、これからも安全を第一に考慮し、持続可能な森林づくりに貢献できる技術者を目指して歩んでいきます。



事業所見学（２学年）



車両系技能講習（２学年）

保護者のページ

会の一言

原石たちが輝く日を夢見て

芦野 仁泰



この春、高校を卒業した息子は林業大学校へ進学しました。入寮前日、車に荷物を積み込みながら寂しさで涙が出そうになりましたが、本人が決めた進路を全面的に応援しようと心に決めて送り出しました。

帰省するたび、息子は堰を切ったように学校での出来事について話し出します。寮での出来事、実習のことなど。今までこれほど話す子だったかと驚くほどです。自信に満ちた笑顔で学校生活を語る姿は、わずか数ヶ月という短期間ですが、顔つきも言葉もすっかりたくましくなっていました。その確かな成長を心から頼もしく、嬉しく感じています。林大での生活を通して、自分のやりたいことや新しい経験に思いっきりチャレンジし、充実した毎日を満喫してほしいと願っています。

先生方、関係者の皆様、学生たちは林業の将来を担う「原石」です。卒業時に美しく輝く宝石となるよう、どうかこれからも厳しく温かく磨き上げていただけますようお願いいたします。

頑張って！

猪瀬 昌子



中学の頃、林業に興味を持ち始めた息子。高校では林業とは違う工業へ。「金属加工をする」「自動車整備士になる」。言うことがいつも違っていました。何を目指したいのか、将来どんな大人になりたいのか迷ってばかりでしたが、高校三年のある日、突然「林業やりたい」と言い出しました。ただ違ったのは、真剣な眼差しだったことです。今まで培ってきたものをほとんど捨て、新しい道を歩み出そうとする息子には少し不安がありました。

しかし、高校の野球部ではキャプテンだったり、先生からの評価も高かったり、きっと大丈夫だろうと信じていました。そして何より、自分から「やりたい」と言ったことの背中を押してやりたいと思いました。

週末帰って来る息子が笑顔で「林大楽しい」と言っている姿を見て、反対しなくて良かったと思っています。事故や怪我など危険性が高い林業で、どうか体を壊さず頑張ってもらいたいと思います。



城山登山（１学年）

森へ続く道

グレイ ロバート



息子の希吾は、長野県北部の森に囲まれた家で育ちました。大きな木々や豊かな野生動物に囲まれ、雪は毎年メートル単位で積もります。幼い頃は外遊びが大好きで、幼稚園でも自然の中で学び、森を探検していました。一方で絵を描くことや、レゴで映画の場面を再現することにも夢中でした。五歳で飯縄山に登ったことも良い思い出です。

小学生になると薪づくりを手伝い、八歳頃からはまき割りにも挑戦しました。学校の勉強には苦労することもありましたが、自分の興味を持ったことには驚くほど集中する子でした。進路を考える中で、大工や美術の道も検討しましたが、高校の先生から長野県林業大学校を紹介していただきました。見学した際の学生の皆さんの生き生きとした姿と仲間意識に、親子とも大きな魅力を感じました。

子どもたちはいずれ都会へ出ていくものだと思っていま

した。しかし林業の道を志した希吾を見ていると、幼い頃から親しんできた森との縁が、今一つの形になろうとしているように感じます。長野県林業大学校のご指導に、心より感謝申し上げます。

夢に向かって

原田紗耶香



学校は好きだけれど、勉強は苦手。早く帰って釣りがしたい！と学校へ行っても放課後どう過ごすかを常に考えていた我が子。とにかく外を飛び回り、興味のあることはとことん突き詰めていく性格。人懐っこさから、大人に可愛がられ、様々な経験をしてきました。

幼い頃から霧ケ峰高原のニッコウキスゲの植栽活動に参加しています。地域の牧野組合の方々や活動に携わっている大学の教授から、鹿による花の食害のことや植栽の必要性等を教わり山の手入れについて興味を持ち、中学生のときに林業の道を目指すようになりました。

高校では里山について学び、作業の際は自分のことだけでなく、周りの状況も把握し、自分がすべきことを理解して行動する力が育ちました。

林大では同じ目標に向かって学ぶ仲間、同じ趣味で気が合う友だちができ、学ぶことが楽しい毎日だと話してくれます。

今後も先生方や先輩方から知識、技術を学び、感謝の気持ちを忘れず、更にステップアップすることに期待し、充実した学生生活が送れるようにサポートしていきたいと思います。





自分の意思を貫いて

我妻久美子



息子は幼い頃からしたいことや目標をハッキリ表現する子どもでした。山や川が大好きで自然の中で伸び伸びと育ち、ある日「山登りがしたい!!」と言い出し山岳部のある高校に進学しました。周りが大学受験一色の中「林業の学校に行きたい!!」と自分の意思を貫き、高二と高三の二回オープンキャンパスに参加して「この寮に住みたい!!」と言って林大生になりました。

親元を離れ、慣れない生活のためか連絡のない日が続いたため、学校便覧に記載されているカリキュラムを見ながら「自分の好きなことを学んでいるんだろうなぁ」と想像しておりました。しばらくすると度々連絡が来るようになり、学校や寮生活の充実ぶりや日々楽しんでいる様子を聞くにつけ、林大に入学できて本当に良かったと思っております。

ご指導くださる先生方、寮母さん、そして同級生や先輩の皆様に感謝申し上げます。



こども園交流（２学年）

学びを糧に

坂口　未央



私の実家も、木曽と同じ山々に囲まれた自然豊かな場所にあります。実家に行くと、裏山や田んぼに直行してしまう息子でした。年齢が上がるにつれ、遊びから次第に農業を手伝うようになりました。それも今の息子の進路を決めるキッカケになっていたのかなぁと思います。

林業を選び、林大に入学し、初めての場所で初めての寮生活。不安や心配がありましたが、それをよそに本人はとても楽しく生活しており、とても安心しました。

授業や実習を通して、様々な知識や技術を学び、一人ではなく、仲間と一緒に成し遂げていくことの大切さも学んでいる息子。成長した姿を見て嬉しく思います。

林大でなければ出会えなかった先生方、友達、後輩。

林大でなければできなかった経験。その全てに感謝を忘れず、学んだことを糧に林業の世界で活躍してほしいと思います。

これからも自分らしく

鈴木　佳子



幼い頃から祖父の庭の手入れを手伝い、木や緑に囲まれて育った息子は、中学生の頃には林業に興味を持つようになりました。高校では造園科へ進学し、さらに専門的に学びたいと進学先を探す中で林業大学校に出会いました。

林大では、寮生活をはじめ初めての経験ばかりで、不安を抱えながらのスタートだったことと思います。それでも先生方や寮母さん、地域の皆様、そして仲間たちに支えられ、多くの経験を重ねて一歩ずつ成長しました。その姿を頼もしく、嬉しく感じています。

林大での学びや出会いは、息子にとってかけがえのない財産となりました。温かく見守り、ご指導くださった皆様に心より感謝申し上げます。

木や緑に携わる仕事は、人々の暮らしに潤いや安らぎをもたらす大切な仕事です。林大で培った知識や経験を糧に、これからも様々なことに挑戦しながら自分らしい道を歩んでほしいと願っています。

成長への感謝

藤田　妙子



息子が林大に入学して一年半が経ちました。自宅を離れての寮生活は、息子にとって大きな挑戦でしたが、日々たくましく成長していく姿に、離れて暮らす寂しさよりも嬉しさが勝ります。

林大での学びは教室だけにとどまらず、屋久島や上高地、北海道での研修など、貴重な体験を数多くさせていただきました。現地で自然や林業に触れた経験は、本人にとって視野を広げる大きな財産になったことでしょう。実習では林業機械の操作に熱心に取り組み、特にグラップルの操縦技術の習得に力を入れているようで、林業への興味と責任感が深まっていることを感じます。

来春には森林組合への就職も内定し、これまでの努力が実を結んだことを大変嬉しく思っております。林大で学んだ知識や技術、そして寮生活で培った協調性や自立心を大切にし、社会人として森林を守る仕事に誇りを持って歩んでくれることを願っています。

これまで支えてくださった先生方、寮の職員の皆様、そして関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

夢を追う背中に寄せて

向井　園子



「お父さんはどんな仕事をしているの？」という自由研究で、父親の林業の現場を見学した小学生の夏。見たことのない重機に目を輝かせていたことを、昨日のように思い出します。

あれから月日が経っても「林業がやりたい」という思いは変わらず、今でも楽しそうに林業の話をしてくれます。高校や林大での学び、インターンを通して山の厳しさも知り、単なる憧れではなく、しっかりと現実を見たうえで夢に向かう姿に頼もしさを感じています。

自然と向き合う中で育まれた「謙虚さ」と「優しさ」を胸に、社会に出てからも、木や山、そして周りの人々を大切に、誠実に接することのできる人になってほしいと願っています。

林大生活では、先生方や先輩・仲間に恵まれ、温かく支えていただきました。深く感謝申し上げます。苦手な勉強もよく頑張り、卒業まであと少しです。これからもずっと応援しています。



調査研究発表（２学年）

木々と共に、自分らしく



大井　美涼
（第41期生）

長野県林業大学校の第四十一期生として卒業し、早いもので六年が経ちました。振り返ると、あの緑豊かな木曽町で仲間と過ごした二年間は、あっという間に過ぎ去ったように感じます。

林大での生活を思い返すと、一番に浮かぶのは「朝のラジオ体操」です。実は早起きが大の苦手な私にとって、朝早い時間に体を動かすのは、当時とても大変でした。しかし毎朝、同期に起こしてもらいながら一緒に青空の下でラジオ体操をした日々は忘れられない思い出です。そこで身についた朝起きる習慣は社会人になった今でもしっかりと生きています。

また、カリキュラムの一つである「自主研究」での経験は大きな糧となりました。課題に対して、自分達で考え研究するプロセスは、大きな学びとなり、林大で得た専門知識や技術に加え、「自分で考え、動く」という姿勢を養えたことが、私自身今の働き方を支える原点となっています。

現在、私は長野県林業公社で女性初の技能職員として日々山と向き合っています。重責に緊張する毎日ですが、それ以上に林業の仕事は楽しく、やりがいを感じています。この環境の中、前向きに頑張れているのは林大卒業生のネットワークの広さがあるからこそです。現場に出れば、先輩や同期と再会し、私が働いている職場の上司も林大ＯＢが多くいらっしゃいます。学校で培った縦と横のつながりは、社会に出た今、想像以上に温かく「林大を出れば、どこへ行っても仲間がいる」その事実が今の私にとって心強い支えになっています。

在校生の皆さん。今は実感できないかと思いますが、林大での生活は本当に短いです。だからこそ、授業はもちろんですが今隣にいる仲間や寮生活の時間を大切にしてください。全寮制だからこそ分かち合える苦労や喜びは、一生の財産になります。厳しい仕事ですが、自然相手の仕事はそれ以上に面白いものです。

皆さんが林大で多くのことを吸収し、いつか現場でお会いできるのを楽しみにしています。

夢中に勝る努力なし



教　授
日詰　究
（第24期生）

寮と本館を結ぶ渡り廊下にはすのこ板が敷いてあるのですが、使い込まれているためか、人が通るたびに「カンカンカンッ！」と乾いた音を上げます。

今朝もその音が聞こえてきました。週番が今日の予定を職員室に確認しにきた音です。この音がすると慌ただしい一日がスタートします。

私はこの四月から、二十四年前に見ていた景色を全く逆の視点で見ながら過ごしています。

今は四十八期生の一学年担任という立場ですが二十四年前は二十四期の学生として林大に在校していました。二十四年という年月が経過し、変わったものがたくさんあります。

男子寮、実習棟が新しくなり、女子寮もでき、グランドには学生駐車場。いたるところにエアコンが入ったなど、挙げればきりがありません。

その中でも私が一番大きく変わったなと感じるのは、学生のチェンソー操作に対する情熱です。自分が学生の頃は、チェンソーを使った実習自体もそんなに多くなく、触れる機会が少なかったのですが、在校生は放課後や休日にも自主的に練習し技術を磨き、大会に出場する学生がいるなど、その姿はひたむきでとてもかっこいいです。

そんな学生を見ていると、「夢中に勝る努力なし」という言葉が似合うと思いました。

どんなことでも「好き」になり、「夢中」になれることがあるのはすごいことだと思います。

「好きなこと」を見つける方法はとても簡単です。とにかく色々なことを体験し挑戦し、そして多くの人に出会うことで興味のあることに必ず出会うことができます。

山や林業のこともっともっと「好き」になって「夢中」になってください。そうすればそれまで苦痛に感じていたことは、いつしか爽快感に変わり、それがやりがいに変わっていきます。

皆さんがこれから羽ばたく社会は思っている以上に広く、そして夢中になれるタネがそこら中に落ちています。拾うも見落とすも自分次第です。

さて、私もこれを書き終えたらランニングに行ってこようかな！

檜のアドバイス

林大生の活動報告

夏休みも過ぎ後期が始まりました。１年生も学校や寮生活にも慣れ、それぞれのペースが出来上がっているようです。日頃から地域の行事に積極的に参加し、住民の皆さまとの交流を深めていくことが、学生一人一人の成長へと繋がっています。ここでは、今年度前期の活動の一部をご紹介します。

インドネシア交流（５月）

５月12日、インドネシアで森林保全活動に取組む高校生が林業大学校を訪れ学生と交流をしました。この交流事業は公益財団法人国土緑化推進機構と公益財団法人オイスカの共催で行われたものです。文化や学習の様子を紹介しあい、理解を深めました。



朴葉巻き（６月）

木曽地域の伝統食「朴葉巻き」。学生の朴葉巻きづくり体験は地域文化を知る一環。ふるさと体験木曽おもちゃ美術館の皆様にご指導いただきました。春から初夏の季節の味です。皆様も木曽のお土産にぜひお召し上がりください。



トップガン研修（６月）

林大が力を入れているチェンソー技術の向上。学校と教育協定を結んでいるハスクバーナ・ゼノア㈱のご協力でより専門的な知識を学んでいます。



みこしまくり（７月）

７月23日、奇祭といわれる「みこしまくり」。今年も学生が参加し神輿を担ぎました。伝統行事に参加することで木曽の文化の一端に触れ、思い出が増えました。



オープンキャンパス（７月、８月）

7月25日、８月23日の２日間、オープンキャンパスを開催し林大を目指す若者に学校を紹介しました。大勢の参加者を前に学生は堂々と技を披露し、魅力を伝えました。



Jrクラス伐木競技交流会（９月）

本年度のアカデミー・ジュニアクラス伐木競技交流会が９月26日～27日に鳥取県で開催され、２学年の伐倒班４名が参加しました。残念ながら入賞とはなりませんでしたが、大会の独特な緊張感を肌で感じる貴重な体験となりました。



林大HP　facebook　instagram

■事務局　長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058